

## 第28章 地域編④：カルナタカ州

### 1. 地域概要

#### (1) 概要

##### ①インドにおける経済的地位

カルナタカ州は、インド南西部に位置し、面積は 19.2 万 km<sup>2</sup>（全国土の 5.8%に相当）、州人口は約 6,500 万人（全人口の 5.0%に相当）である（2017 年）。同州は西ガーツ山脈、東ガーツ山脈が合流する台地に位置しており、北はマハラシュトラ州、西はゴア州とアラブ海、南はケララ州、タミル・ナドゥ州、東はアンドラ・プラデシュ州、テランガナ州と接している。雨雲が山脈に遮られ降水量は少ない。

2019 年の下院総選挙では、カルナタカ州の 28 の選挙区（28 議席）で、BJP が 25 議席を獲得。BJP と合わせて、カルナタカ州では 3 大政党であるインド国民会議（INC）とジャナタ・ダル（世俗主義。以降、「JD（S）」とする）はそれぞれ 1 議席ずつの結果となった（その他が 1 議席）。一方、下院総選挙に先立って 2018 年に実施された州議会選挙では、BJP は 104 議席を獲得して党別では最多、INC は 79 議席、JD（S）は 37 議席であった。2013 年の州議会選挙の際には INC が 122 議席、JD（S）が 40 議席、BJP が 40 議席であり、2018 年の州議会選挙では BJP が躍進し、その分 INC が議席を減らした結果となった。しかし、いずれの党も過半数には至らず、INC と JD（S）が連立政権を樹立していた。2019 年の下院総選挙での BJP 勝利を受け、それまでの連立与党の一部議員が辞任したことで、BJP が過半数を占めることとなり政権を獲得した。2022 年 4 月時点、州首相は BJP のイエディユラッパ氏である。

カルナタカ州には航空宇宙、自動車・自動車部品、建設・土木、工作機械、バイオテクノロジーなどの諸産業が集積している。同州の名目 GDP は全国 GDP の 7.8%を占め、一人あたり GDP は 3,761 ドルであり、全国平均の約 1.5 倍である（2019 年度）。「Demographia World Urban Area 15th Annual Edition: 201904」によると、州都ベンガルールの人口は 1,125 万人（2019 年）で、デリー、ムンバイ、コルカタに次ぐ規模である。1991 年の経済自由化以降、ベンガルールには IT 企業の集積が進んでいる。その一因として、Y2K（いわゆる「2000 年問題」）への対応のため、欧米企業が IT エンジニアリング業務をアウトソースしたことが挙げられる。

ベンガルールには地場の世界的ソフトウェア企業のインフォシス（Infosys）やウィプロ（Wipro）、欧米企業では Google、アマゾン、マイクロソフト、HP、IBM、SAP などが本社や地域本社を置くようになり、現在では「インドのシリコンバレー」と呼ばれるほど IT、先端製造業の R&D の中心地となっている。2018 年 11 月、楽天は、新たなテクノロジーを創出するための研究機関として「楽天技術研究所」をベンガルールに設立している。また、カルナタカ州政府は、インドの州政府として初めて、エコシステムを促進するためのプラットフォームである「Start up Cell」<sup>50</sup>を設立しており、シード資金なども提供している。ベンガルールはスタートアップ・エコシステムランキングでインド 1 位（世界 22 位）となっている（23 章参照）。ベンガルールにおける 2017 年から 2021 年にかけての VC からの資金調達額は 210 億ドルにのぼる。

<sup>50</sup> <https://www.missionstartupkarnataka.org/karnataka-startup-cell?karnataka-startup-cell>

なお、2021年11月には Karnataka Digital Economy Mission は州を超えてスタートアップを支援する「Beyond Bengaluru Startup Grid」を立ち上げ、市場や資金調達のアクセスなどの支援を行っている。

ベンガルールは海拔920mに位置する高原都市で、温暖な気候で非常に過ごしやすいため、「インドの軽井沢」と呼ばれており、日本人駐在員からの人気も高い。

なお、2006年にインド政府は植民地時代に付けられたバンガロール（Bangalore）という都市名を、現地のカンナダ語で「豆の街」を意味するベンガルール（Bengaluru）に改めた。その由来は、かつて同地の王が狩りの途中で道に迷って空腹に窮していたところ、女性が煮豆を供したという故事とされる<sup>51</sup>。

図表 28-1 インドにおけるカルナタカ州の位置



## ②工業団地・日系企業進出動向

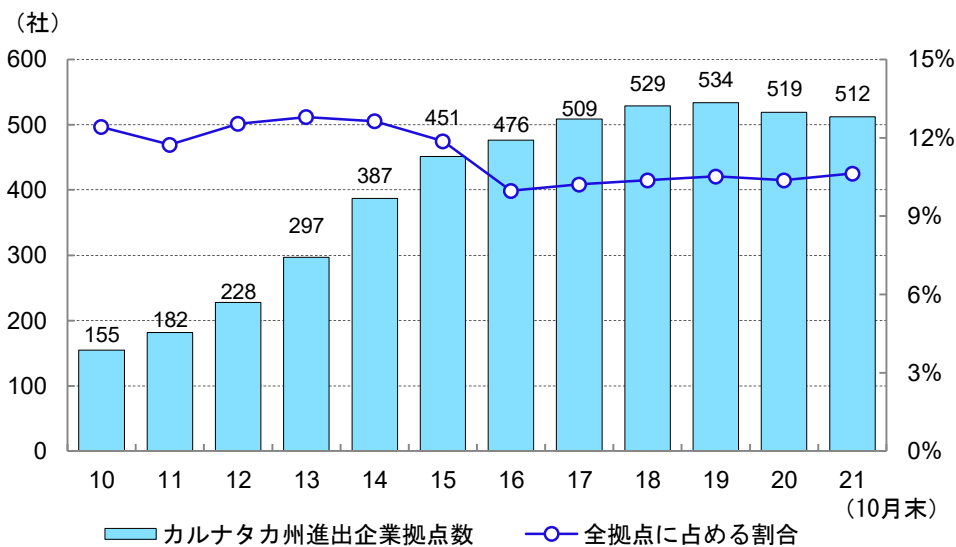
ベンガルール周辺で日本企業が進出している工業団地としては、ビダディ（Bidadi、主な進出企業：トヨタ、豊田通商）、エレクトロニクス・シティ（Electronics City、同：横河電機、ファナック、安川電機）、ナラサプラ（Narasapura、同：ホンダ）などがある。

<sup>51</sup> 諸説あり。

また、日本工業団地<sup>52</sup>として、ベンガルールから 86km 北西部にトゥムクウル (Tumkur) 地区の開発が進められている。

在インド日本国大使館によれば、2021 年 10 月時点でカルナタカ州に進出している日系企業の拠点数は 512 で、2010 年の約 3.3 倍に増えている (図表 28-2)。拠点数増加の背景には、IT 関連の製造業が集積していることや、トヨタ・ルノー日産・ホンダなど完成車メーカーの進出に伴って、Tier1、Tier2 の部品サプライヤーも進出していることがある。

図表 28-2 カルナタカ州進出日系企業の拠点数推移



(出所) 在インド日本国大使館、JETRO「インド進出日系企業リスト (2022 年 6 月)」より作成

州政府は投資促進政策として、2020 年から 2025 年までの 5 カ年産業政策 (Karnataka Industrial Policy 2020-25) を推進している。Tier-2、Tier-3 都市を開発することや、5 億ルピー相当の投資を誘致し、200 万人の雇用を創出することを目指している。また、最近の労働法改正なども整合をとっている。

## (2) 進出日系企業から見た事業・生活環境やコスト

### ① インフラ・物流

#### 【道路・鉄道】

ベンガルール市内の渋滞はインドの大都市でも特に深刻で、2020 年にオランダ企業が実施した世界の都市の渋滞の程度のランキングで世界 1 位となった。

<sup>52</sup> 2015 年 4 月の「日印投資促進とインド太平洋経済統合に向けたアクションアジェンダ」に盛り込まれた、日本からインドへの投資促進を目的に設定される工業団地。現在 12 カ所が候補として設定されている。

特に、通勤ラッシュの朝 9～10 時と夕方 6～7 時は渋滞がひどくなる傾向があり、最も渋滞がひどくなる日時は、金曜日の夜 7～8 時とのことである。

渋滞緩和を企図したベンガルール・メトロが日本の円借款（総額 655 億円）で建設されており、2022 年 4 月時点、パープルライン（東西線、17 駅 18.1 km 区間）とグリーンライン（南北線、24 駅 24.2km）が運行している。ベンガルール・メトロ建設事業フェーズ 2 では、都心部の外郭環状道路沿いや環状道路から近郊の空港までを繋ぐ空港道路沿いを含む 3 路線（約 80 キロメートル）を建設する予定となっており、2021 年 3 月に円借款契約が調印されている（約 520 億円）。

### 【水】

大量の水を用いる企業の場合は、供給業者からタンクで定期的に購入することがあるとのことである。なお、タミル・ナドゥ州とは州境を流れる川の水利権を巡る農民同士の対立が常態化している。2016 年 9 月、最高裁が上流側のカルナタカ州に対し、下流側のタミル・ナドゥ州へ水を供給するよう命じたことに対してカルナタカ州住民が反発し、タミル・ナドゥ州ナンバーの車や商店が放火され、警官隊とデモ隊の衝突で死者 2 名が出る事態となった。

この事件でベンガルール市の一部を含め州内に外出禁止令が出され、日本の完成車メーカー工場も操業を一時停止するなど、治安・経済に大きな影響が生じた。

### 【空港・港湾】

ケンペゴウダ国際空港がベンガルール市から北に約 37 km、ベンガルールとハイデラバードを結ぶ国道 7 号線沿線に位置している。日本航空（JAL）が成田からベンガルールへの直行便を 2020 年に開設する予定であったが、COVID-19 の影響により、延期となっている。2022 年 7 月時点では臨時便が運航されている。このほか、ベンガルールからは、シンガポール、香港、中東などやインド国内各都市に就航している。

カルナタカ州自体は西側がアラビア海に面し、マンガロール港などの官営港湾があるが、ベンガルールは州東側の内陸部にあり、西海岸の港との間では道路が整備されていない丘陵地帯を通る必要があるため、日本企業はタミル・ナドゥ州のチェンナイ港、カマラジャール港から原材料の輸入などを行うことが多いようである。

### 【電力】

Central Electricity Authority 「Annual Report 2020-21」によると、カルナタカ州では、2020 年度は 68,851 MU の需要に対し供給が 68,831 MU で、若干の需給ギャップがあったが、ピーク時需給については、14,367 MW の需要に対しギャップが生じていない。

### 【不動産】

企業集積に伴って土地・不動産価格は高騰しており、工業団地の土地価格・事務所賃料はデリーやムンバイと同程度となっている。

ベンガルール市内のチャンセリー・ホテル (Chancery Hotel) では、Toyota Enterprise India Pvt. Ltd. がビジネスコンビニ「NEXTEP」を開設し、ビジネスサポートや生活サポートなどを行っている。同社の親会社であるトヨタエンタプライズは、トヨタ自動車の完全子会社で、ビルメンテナンス、ホテル (指定管理)・保養所、レストラン・社員食堂などの事業を営んでいる。

## ②労働事情

### 【人材】

カルナタカ州の人は、比較的性格が穏やかで勤勉な人が多く、日本企業の企業文化と親和性が高いと言われている。特に IT 産業の集積したベンガルールではカスタ意識も希薄で、労使関係のリスクも小さいとされる。人的資源開発省の「All India Survey on Higher Education 2019-2020」によると、カルナタカ州には 65 の総合大学、3,670 の単科大学があり、州別の大学数ではそれぞれ 4 位、3 位であった。高等教育における男子学生と女子学生の比率は 50%対 50%とほぼ同数である。ベンガールの IT、高度製造業の集積から、理数系人材は特に豊富と言われている。

トヨタ自動車の現地法人「トヨタ・キルロスカ・モーター」は、経済的理由から高校への進学が難しい中学卒業者を対象にモノづくりの技術を教育する「トヨタ工業技術学校」を 2007 年に同社敷地内に設立した。日本の経済産業省は、インドの技能開発・企業家省との間で 2016 年 11 月に交わした「ものづくり技能移転推進プログラムに関する協力覚書 (MOC)」に基づき、2017 年 6 月に、同校を「日本式ものづくり学校 (Japan-India Institute for Manufacturing : JIM)」として認定している。

### 【賃金】

インド日本商工会と JETRO の「第 15 回賃金実態調査概要」によると、カルナタカ州のスタッフとワーカーの 2021 年の実績は、スタッフが 8.1%、ワーカーが 9.4%であった。インド全体ではスタッフは 7.9%、ワーカーが 8.5%で、カルナタカ州では、スタッフ・ワーカーともに昇給率は全国を上回った。

## ③生活環境

### 【気候】

高原地域にあるため、南部でも気温や湿度が極端に高くはならず、比較的安定した穏やかな気候である。モンスーンの時期 (6 月中旬頃) に雨が多く、洪水が起きる場合もあるが、チェンナイなどと比べると大規模災害は少ない。



バンガロールの高所からの街並み

### 【教育】

日本人学校はないが、Canadian International School や Stonehill International School などのインターナショナルスクールがベンガロールに 10 校程度ある。また、日本人補習校(サタデースクール)があり、バンガロール日本人会と PTA によって運営されている。2019 年 4 月時点の生徒数は 66 名(小学生 54 名、中学生 12 名)である。

### 【医療】

日本人駐在員はバンコクやシンガポールの病院のほか、日本帰国時に病院にかかることも多いが、医療サービスは充実している。駐在員のリスクマネジメントサービスの利用も可能である。インドの病院の場合、診療、処置、薬の処方など窓口が細分化されているため、一連の医療サービスを受けるのに時間がかかる点に注意が必要である。

外務省のウェブサイト「世界の医療事情 インド」では、ベンガロールの医療機関として、Sakra World Hospital や Columbia Asia Referral Hospital, Yeshwanthpur などの病院が紹介されている。

「世界の医療事情 インド」：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/india.html>

ベンガロールの病院に関する情報は、在インド日本国大使館やバンガロール日本人会のウェブサイト<sup>53</sup>でも紹介されている。

### 【治安】

ベンガロール市内の治安は良く、日本人が巻き込まれる凶悪犯罪は非常に少ない。ただし、中間層以上や若者を中心に飲酒に比較的寛容な風潮であるため、金曜や週末の深夜の外出は避けた方が良くいとされている。

<sup>53</sup> 在インド日本国大使館：[https://www.in.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/00\\_000572.html](https://www.in.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000572.html)

バンガロール日本人会：<https://www.bangalore-nihonjinkai.com/%E7%94%9F%E6%B4%BB%E3%82%AC%E3%82%A4%E3%83%89-1/%E7%97%85%E9%99%A2/>

**【住居】**

ベンガルール市内で外国人駐在員に人気のエリアは、中心部の MG ロード (MG Road)、エンバシー・ハビタット (Embassy Habitat)、フェアモント (Fairmont)、郊外西部のホワイトフィールド (Whitefield) などである。

**【日本食】**

ベンガルール市内には日本食レストランが増えており、日本人シェフがいる店舗もある。日本食材は EC サイト「MAIN DISH」で購入できる。

**【金融】**

邦銀では、三菱 UFJ 銀行ベンガルール支店とみずほ銀行ベンガルール支店が法人向けのサービスを行っている。給与振込、日常的に発生する決済や送金などについては、地場銀行に口座を作って行うことが一般的である。

## 2. 主要工業団地

### (1) トウムクウル地区：ヴァサンタ・ナラサプラ工業団地

ベンガルールから 80 km 余り北西にあるトウムクウル (Tumkur) 地区は、インド連邦政府の「国家製造業政策」により製造業専用の工業地区 (National Investment & Manufacturing Zone : NIMZ) として指定された 12 ヶ所の 1 つで、カルナタカ州の産業政策においても、優先的な開発が定められている。同産業政策のインセンティブも付与の対象となっている。

現在同地区内のヴァサンタ・ナラサプラ (Vasantha Narasapura) 工業団地では入居企業の操業と並行して開発が進んでいる。工業団地の土地総面積は 57 km<sup>2</sup> (約 14,000 エーカー) で、第 1 フェーズは完売、第 2 フェーズは約 14 エーカー、第 3 フェーズでは約 1,100 エーカーの空き地があり、申請受付中。このうち、第 3 フェーズでは、529 エーカーを日本工業団地 (JIT)、約 500 エーカーを工作機械専用の工業団地 (Machine ToolPark、MTP) として開発中である (2021 年 3 月時点)。フェーズ 3 には食品産業の集積地である「メガ・フード・パーク」が稼働しており、多様な企業の進出が期待されている。日本企業としては、東芝三菱電機産業システム (TMEIC) が進出済みである。第 4 フェーズまで開発が予定されている (700 エーカーを収容予定)。土地契約は 99 ヶ年のリース契約で、日本工業団地の予定価格は m<sup>2</sup> あたりの土地価格は 2,693 ルピー/ m<sup>2</sup> となっている。

(2) 主要工業団地

図表 28-3 主要工業団地の概要 (2021年3月時点)

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ビダディ (Bidadi)	バンガロール中心部より28 km マイソール行き州道 (SH-17) 沿い	KIADB※1、 BVIPWA (民間) ※2	(1) KIADB 工業団地 が販売済 み。 (2) 7,165 ルピー/㎡ (BVIP の 予定価格)	KIADB が開発した工業団地 (第1フェーズと第2フェーズでは空きなし。 この他、トヨタおよびボッシュなどの部品サプライヤー企業に作られた協会「ビダディベンダー工業団地福祉協会 (Bidadi Vendors Association; BVIPWA)」は、「ビダディベンダー工業団地 (Bidadi Vendor Industrial Park)」という新しい民間工業団地プロジェクトを計画し、その第1フェーズでは95エーカーの工業用地を収用済み。第2フェーズで更に300エーカーを収用予定。	トヨタ自動車、豊田通商、豊田鉄工、豊田合成、三井物産、尾張精機、三菱電機、アイシン高丘など。
ハロハハリ 第4フェーズおよび第5フェーズ (Harohalli P-IV & P-V)	バンガロール中心部より45km カナクプラ行き国道209号線沿い	KIADB	(1) 6,177 ルピー/㎡ (第4フェーズの予定価格) (2) 7,165 ルピー (第5フェーズの予定価格)	申請受付中。第1フェーズ～第3フェーズでは空きなし。第3フェーズでは、100エーカーを女性企業家専用の工業団地として開発する計画。第4フェーズでは約350エーカーの工業用地が収用済み。第5フェーズでは約1,000エーカーの用地が収用中。 電力: 220/11 KVA の新たな変電所を設置する予定。	東海ゴム (ハロハハリ第2フェーズ)、川崎工業
エレクトロニクス・シティ (Electronics City)	バンガロール中心部より22 km	KIADB	販売済み	空きなし	ファナック、横河電機、安川電機



工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ボマサンドラ・ ジガニ (Bommasandra- Jigani)	バンガロー ル中心部よ り 26km	KIADB	販売済み	空きなし	豊田自動織機、矢 崎、Semitec、北 川など。
ホワイトフィール ド (Whitefield)	バンガロー ル中心部よ り 18km	KIADB	販売済み	空きなし	牧野、NTT など。
エアロスペースパ ーク・エレクトロ ニクス ハードウ ェア パーク (Aerospace Park/SEZ) & (Electronic Hardware Park)	バンガロー ル中心部よ り 35 km ハ イデラバー ド行き国道 (NH-7) 沿い	KIADB, CDC (民間) <sup>※3</sup>	(1) 6,918 ルピー/㎡ (KIADB エ 業団地の予 定価格) (2) 13,650 ルピー/㎡ (台湾工業 団地の予定 価格)	申請受付中。土地面積は約 500 エーカー。うち、60 エー カーの空き地。 同工業団地の近辺にある、電 子機器専用の工業団地 「 Electronic Hardware Park」では台湾系民間デベロ ッパーである CDC 社が台湾工 業団地 (Taiwan Industrial Cluster) を開発中。土地面 積は約 160 エーカー。第 1 フ ェーズでは 70 エーカーが販 売中。	アマダ
ドッダバラプル オバデナハリ (Obadenahalli)	バンガロー ル中心部よ り 36km	KIADB	4,941 ルピ ー/㎡ (予 定)	申請受付中。196 エーカーの 用地が収用済み。うち、約 75 エーカーの空き地。	武蔵精密、ケー ヒン、サカタのタ ネ、タキイ種苗、 内外キャスト ィング、ホンダ など。
マール第 4 フェ ーズ (Malur P- IV)	バンガロー ル中心部よ り 45 km 州 道 99 号線沿 い	KIADB	4,002 ルピ ー/㎡ (予 定)	申請受付中。総面積は約 450 エーカー。空き地は約 15 エ ーカー。基本インフラは整備 済み。 給水量：KIADB からの水供給 はなし。各企業が自分の井戸 水をアレンジする必要あり。	日本ピストンリ ィング、ツジカワ、 油研工業など。

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/m <sup>2</sup> )	空き状況	進出済主要 日系企業
ナルサプル (Narsapura) 第2 フェーズ/ジャッ カサンドラ (Jakkasandra)	バンガロー ル中心部よ り55 km。チ ェンナイ行 き国道4号 線沿い	KIADB	2,174 ルピ ー/m <sup>2</sup> (水供 給インフラ 整備費用を 除いた予定 価格)	第1フェーズが販売済み。主 に92のプロジェクトが承認 されている。第2フェーズで は628エーカーが割り当て承 認済みで、現時点では、空き 地約20エーカー。	本田技研工業、バ ンドー化学、アイ シン、エクセディ など。
ヴェームガル (Vemgal)	バンガロー ル中心部よ り約50 km。 国道4号線 沿い	KIADB	4,225 ルピ ー/m <sup>2</sup> (予 定)	申請受付中。第1フェーズの 総面積は約620エーカーで、 空き地は約5エーカー。第2 フェーズで更に約500エーカ ーの用地を収用予定。 給水量：現在、KIADB からの 水供給はなし。各企業が自分 の井戸水をアレンジする必要 あり。なお、40MLD の処理 済水をナラサプル、ヴェーム ガル、マルール工業団地に供 給するプロジェクトが計画 されている。 電力：220/11 KVA の新たな変 電所を設置する予定。	三菱エレベータ ー
ガウリビダヌール 第2フェーズ (Gowribidanur P- 2)	バンガロー ル中心部よ り約70 km。 州道7号線 沿い	KIADB	1,939 ル ピー/m <sup>2</sup> (予 定)	申請受付中。第2フェーズの 総面積は約627エーカー。空 き地は約30エーカー給水量： KIADB からの水供給はなし。 各企業が自分の井戸水をア レンジする必要あり。地下水が 豊富。 電力供給：各企業に11 KVA を 配電する。	なし
ピニア・ラジャジ ナガル (Peenya- Rajajinagar)	バンガロー ル中心部よ り約15 km。 ムンバイ行 き国道4号 線沿い	KIADB	販売済み	空きなし	日立工機、DOWA サ ーモテック、ミラ プロ、サンライズ 工業、DMG 森精機 など。

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/㎡)	空き状況	進出済主要 日系企業
ドバスペット第 4 フェーズ (Dabaspet P-IV)	バンガロール中心部より約 50 km。 州道 4 号線 沿い	KIADB	3,706 ルピー / ㎡ (予定)	申請受付中。総面積は約 890 エーカー。空き地は約 30 エーカー。 給水量：KIADB からの水供給はなし。各企業が自分の井戸水をアレンジする必要あり。 電力供給：各企業に 11 KVA を配電する。	東海理化、東洋電機、日立・ターミナル・ソリューションズ
ヴァサンタ・ナラ サプラ 第 2 フェーズ/第 3 フェーズ (Vasantha Narasapura P-II/P-III)	バンガロール中心部より約 86km 国道 4 号線 沿い トゥムクル市より 約 15 km	KIADB	(1) 1,730 ルピー / ㎡ (P-II/P-III の予定 価格) (2) 2,456 ルピー / ㎡ (工作機械 専用工業団 地の予定価 格) (3) 2,693 ルピー / ㎡ (日本工業 団地の予定 価格)	申請受付中。第 2 フェーズは約 14 エーカー、第 3 フェーズでは約 1,100 エーカーの空き地。このうち、第 3 フェーズでは、529 エーカーを日本工業団地 (JIT)、約 500 エーカーを工作機械専用の工業団地 (Machine Tool Park、MTP) として開発中。 JIT では約 300 エーカーの空き地、MTP では約 250 エーカーの空き地。 第 4 フェーズで更に約 700 エーカーを収用予定。同工業団地が国家製造業政策 (National Manufacturing Policy、NMP) のもと、国 12 カ所で開発する国家投資・工業地区 (National Investment & Manufacturing Zone: NIMZ) の一つとなる。 給水量：現在、KIADB より 5MLD の処理済水施設を設置済み。 電力：JIT と MPT 用の 220/11KVA の新たな変電所を設置。	東芝三菱電機、シヨウワなど。

工業団地名	アクセス	開発主体	土地価格 (ルピー/m <sup>2</sup> )	空き状況	進出済主要 日系企業
ホスール (Hosur)	バンガロール中心部より約40KM。 NH7号線沿い。バンガロール国際空港より75km。	SIPCOT <sup>※4</sup>	販売済み	P-I と P-II とともに販売済み。 総面積は約2,000エーカー。 P-III では800エーカーを収用予定。	朝日電装、ジャパンメタルビルディングシステムズ(JMBS)、 India Nippon Electricals、関西ペイントなど。
GMR クリシュナギリ・インベストメント・リジョン (GMR Krishnagiri SEZ)	バンガロール中心部より約65km。 NH7号線沿い。ホスールより20km。	GMR(民間) <sup>※5</sup>	3,706ルピー/m <sup>2</sup> (P-2の予定価格)	申込受付中。第1フェーズ(564エーカー)が販売済み。 第2フェーズで1,536エーカーの工業用地が開発中。	トヨタ紡織

(注) ※1 KIADB : カルナタカ州工業団地開発局 (Karnataka Industrial Area Development Board)。オンラインで土地申請は可能 (URL: <http://164.100.133.168/kiadbgisportal/>)  
 ※2 BVIPWA : ビダディベンダー工業団地福祉協会 (Bidadi Vendor Industrial Park Welfare Association)  
 ※3 CDC : 台湾系の民間デベロッパー (Century Development Corporation.) (URL: <http://www.centurydev.com.tw/>)  
 ※4 SIPCOT : タミル・ナドゥ州産業振興公社 (State Industries Promotion Corporation of Tamilnadu Ltd.) (URL: <https://sipcot.tn.gov.in/>)  
 ※5 GMR : 地場大手デベロッパー企業 (URL: <https://gksl.gmrgroup.in/>)  
 (出所) JETRO「インドの工業団地情報」より作成